

凡 例

一、本編は、Ⅰ生活誌編、Ⅱ資料編、Ⅲ年表の三部からなり、それぞれ町民生活の変遷、町域内外での歴史的推移を理解するうえで重要と思われるものを収載した。

一、生活誌はことばの生活、民俗、伝承歌謡、資料編は遺跡・遺物、古代・中世、近世、近・現代、熊野筆関係から成り、原則として昭和六十年までの事物をとりあげたが、場合によってその後に及んでいるものもある。

一、資料編の表記はできるだけ原資料に忠実であることを基本としたが、読解の便宜をはかるため、次の点に留意した。

1、漢字の字体は原則として古代・中世の章以外は新字体を用い、新字体のないもの、古字・略字・異字などは正字体に改めたがそのまま用いたものもある。

2、変体がなは原則としてひらがなに改めたが、助詞に用いられている而(て)・江(え)・者(は)・茂(も)・与(と)・斗(と)・而已(のみ)は8ポイント活字で示した。

3、明らかな誤字・脱字は校正し、若しくは右傍にママ(〇〇カ)と注記した。ただし、江戸時代に一般に慣用されていた誤字は、かならずしも改めなかった。

4、適宜に段落を設け、読点・並列点(中点)をつけた。

5、平出・欠字はすべて省略した。

6、本文を省略した場合は「前略」・「中略」・「後略」などで示した。

7、虫くい・破損は□□・□□□□などでその状態を示した。

8、貼紙・付紙についてはそれぞれの場所を□□で示し、内容を記入した。貼紙などの下の原内容が判読できるときは「□□」として、内容をくみ入れた。

9、原本に抹消・塗抹がある場合は、×をその文字の左傍に付け、塗抹などにより文字が判読不明の場合は□□□□で示した。

10、朱字は「」で示し、合点は「」であらわした。

11、編集者の注記は、すべて「」で示した。

一、資料解読の便となるように適宜に解説をつけた。